

クレディター・プレゼンテーション

2014年3月期第4四半期

野村ホールディングス株式会社

2014年4月

目次

プレゼンテーションの概要

- エグゼクティブ・サマリー(P2)
- 2014年3月期決算概要(P3)
- 営業部門(P4)
- アセット・マネジメント部門(P5)
- ホールセール部門(P6-7)
- 金融費用以外の費用(P8)
- 強固な財務基盤(P9)
- バランスシート・マネジメント(P10)
- 流動性ポートフォリオ(P11)
- 調達構造(P12)
- 信用格付(P13)

Financial Supplement

- バランス・シート関連データ(P15)
- 連結損益(P16)
- 連結決算:セグメント情報と地域別情報 税前利益(損失)(P17)
- セグメント「その他」(P18)
- バリュースコア・リスク(P19)
- ホールセール部門関連データ(P20)
- 人員数(P21)

エグゼクティブ・サマリー

決算ハイライト

2014年3月期通期

- **税前提利益・当期純利益¹は、米国会計基準会計の適用を開始した2002年3月期以降、2006年3月期²に次ぐ高水準**
 - 収益: 1兆5,571億円 (前年比: 14%減[※]) [※]今期より、野村不動産ホールディングスが連結子会社から外れたことが主な要因
 - 税前提利益: 3,616億円 (前年比: 52%増)
 - 当期純利益¹: 2,136億円 (前年比: 99%増)
 - ROE: 8.9% (前年: 4.9%)
 - EPS³: 55.81円 (前年: 28.37円)

- **3セグメント合計の税前提利益は3,309億円(前年比: 71%増) ~ 全てのビジネス部門が大幅増益**
 - 【営業部門】 株式市場の追い風等もあり、税前提利益は2006年3月期に次ぐ高水準 ~ 全社利益を力強く牽引
 - 【アセット・マネジメント部門】 資金流入とマーケット環境の改善を受けて運用資産残高が拡大
 - 【ホールセール部門】 全地域・全ビジネスラインが前年比で増収、ビジネス見直しやコスト削減の取組みも奏功し、収益性が改善

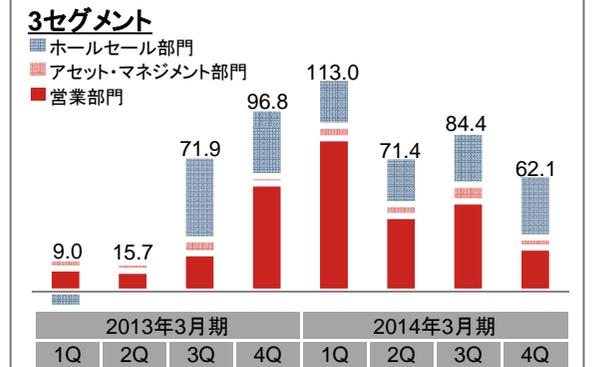
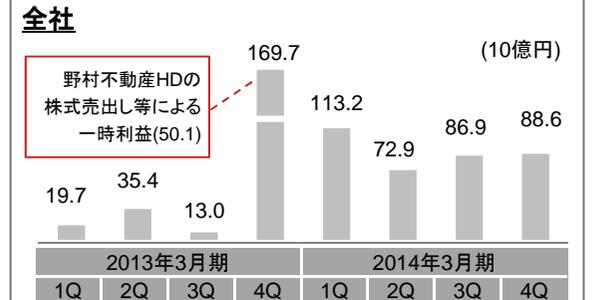
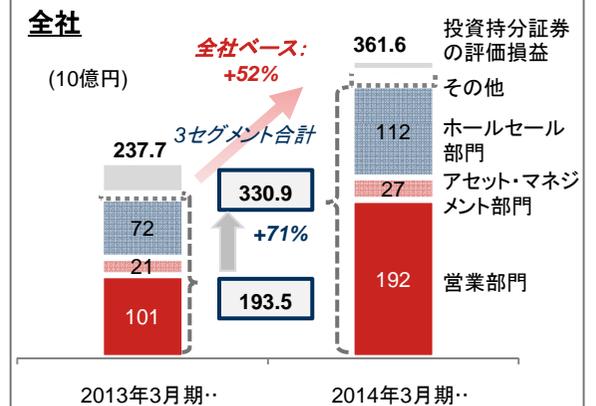
2014年3月期第4四半期

- **全社税前提利益は886億円~日本関連ビジネスの減速を、海外ビジネスと保有株式の売却益等で吸収**
- **海外合計で159億円の税前提利益を達成⁴**
 - 収益: 3,899億円 (前四半期比: 3%増、前年同期比: 40%減)
 - 税前提利益: 886億円 (前四半期比: 2%増、前年同期比: 48%減)
 - 当期純利益¹: 613億円 (前四半期比: 27%増、前年同期比: 26%減)
 - ROE⁵: 9.8% (前四半期: 7.9%、前年同期: 14.8%)
 - EPS³: 16.02円 (前四半期: 12.65円、前年同期: 21.55円)
- **3セグメント合計の税前提利益: 621億円(前四半期比26%減)**
 - 【営業部門】 不透明な市場環境を受けて投資家のリスク許容度が低下、優遇税制終了前の駆け込み需要があった前四半期比で株式・投信が減速
 - 【アセット・マネジメント部門】 前四半期に計上した配当収入の剥落や、保有資産の評価見直し等の影響で減益となるも、本業は堅調
 - 【ホールセール部門】 好調な米州・欧州が日本・アジアの減速を吸収し、前四半期比で増収増益。顧客基盤の拡大や収益源の多様化が進み、グローバル・マーケット、インベストメント・バンキング共に増収

バランスシートマネジメント(2014年3月末現在)

| | | | |
|-----------------------|--------|-----------------------------------|--------------------|
| 資産合計 | 43.5兆円 | レベル3資産 ⁷ | 0.4兆円(デリバティブ負債相殺後) |
| 当社株主資本 | 2.5兆円 | 流動性ポートフォリオ | 6.1兆円 |
| グロス・レバレッジ | 17.3倍 | Tier 1比率・Tier 1コモン比率 ⁸ | 13.3%(バーゼル3) |
| 調整後レバレッジ ⁶ | 10.4倍 | | |

税前提利益の推移



(1) 当社株主に帰属する当期純利益 (2) 2006年3月期の税前提利益: 4,520億円、当社株主に帰属する当期純利益: 3,043億円 (3) 希薄化後一株当たり当社株主に帰属する当期純利益 (4) 米国会計原則に基づく「地域別情報」に記載(但し、当第4四半期の数値は速報値)。米国会計原則に基づく「地域別情報」は、その収益および費用の各地域への配分が原則として役務の提供される法的主体の所在国に基づき行われており、当社において経営管理目的で用いられているものではない。尚、2014年4月30日付で野村ホールディングス単体決算における関係会社株式評価損(793億円)を公表しているが、そのほぼ全額が、当該関係会社の業績として第3四半期までの連結決算に取り込まれている (5) 各期間の当期純利益を年率換算して算出 (6) 調整後レバレッジは、総資産の額から売戻条件付買入有価証券および借入有価証券担保金の額を控除した額を、当社株主資本の額で除して得られる比率 (7) 暫定数値 (8) Tier 1コモン比率: Tier 1資本から非支配持分を控除し、リスク調整後資産で除したものの (9) 2013年3月期の業績には、野村不動産ホールディングスを連結子会社として含む

2014年3月期決算概要

2014年3月期第4四半期

2014年3月期通期

| (単位 10億円) | 2014年3月期 | | 前四 半期比 | 前年 同期比 ¹ | 2013年 3月期 | 2014年 3月期 | 前年 同期比 ¹ |
|----------------------|--------------|--------------|-------------|------------------------|----------------|----------------|------------------------|
| | 3Q | 4Q | | | | | |
| 収益合計 (金融費用控除後) | 379.4 | 389.9 | +3% | -40% | 1,813.6 | 1,557.1 | -14% |
| 営業部門 | 128.0 | 97.9 | -24% | -29% | 397.9 | 511.9 | +29% |
| アセット・ マネジメント部門 | 21.2 | 20.5 | -4% | +12% | 68.9 | 80.5 | +17% |
| ホールセール部門 | 188.7 | 198.5 | +5% | +1% | 644.9 | 765.1 | +19% |
| 3セグメント合計 | 337.9 | 316.8 | -6% | -10% | 1,111.7 | 1,357.5 | +22% |
| その他 ①、② | 35.4 | 80.8 | +128% | -71% | 664.2 | 188.8 | -72% |
| 投資持分証券の 評価損益 | 6.2 | -7.7 | - | - | 37.7 | 10.7 | -72% |
| 金融費用以外の費用 | 292.5 | 301.4 | +3% | -38% | 1,575.9 | 1,195.5 | -24% |
| 税前利益 | 86.9 | 88.6 | +2% | -48% | 237.7 | 361.6 | +52% |
| 営業部門 | 47.7 | 23.3 | -51% | -59% | 100.6 | 192.0 | +91% |
| アセット・ マネジメント部門 | 8.9 | 5.3 | -40% | +36% | 21.2 | 27.1 | +28% |
| ホールセール部門 | 27.8 | 33.5 | +20% | -6% | 71.7 | 111.8 | +56% |
| 3セグメント合計 | 84.4 | 62.1 | -26% | -36% | 193.5 | 330.9 | +71% |
| その他 ①、② | -3.7 | 34.2 | - | -32% | 6.6 | 20.0 | +203% |
| 投資持分証券の 評価損益 | 6.2 | -7.7 | - | - | 37.7 | 10.7 | -72% |
| 当期純利益 ^{2,3} | 48.3 | 61.3 | +27% | -26% | 107.2 | 213.6 | +99% |

第4四半期に関する補足 ① フォートレス・インベストメント・グループLLC株式の売却益:179億円 ② 自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する利益:27億円

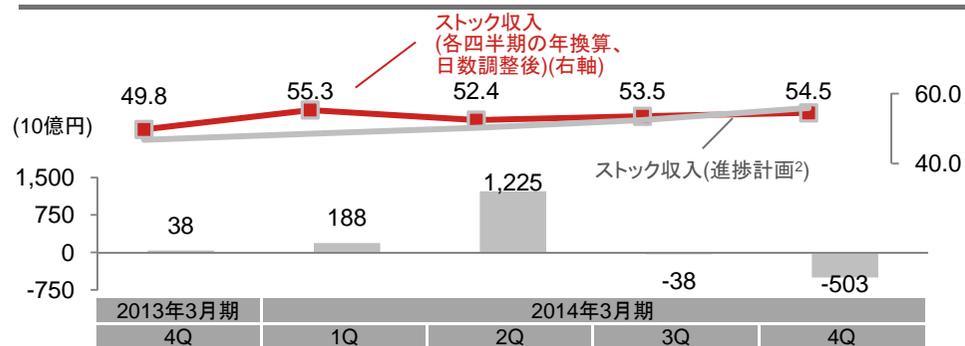
(1) 2013年3月期の業績には、野村不動産ホールディングスを連結子会社として含む (2) 当社株主に帰属する当期純利益 (3) 2014年4月1日以降開始事業年度から復興特別法人税が撤廃されることに伴い、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は17億円減少し、法人税等調整額が同額増加している

営業部門

収益合計(金融費用控除後)、税前利益

| (10億円) | 通期 | | 四半期 | | | | | | 前四 半期比 | 前年 同期比 |
|-------------------|--------------|--------------|--------------------|----------|-------|-------|------|------|-----------|-----------|
| | 2013年 3月期 | 2014年 3月期 | 2013年 3月期 4Q | 2014年3月期 | | | | | | |
| | | | | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | | | |
| 収益合計 (金融費用控除後) | 397.9 | 511.9 | 138.7 | 166.3 | 119.7 | 128.0 | 97.9 | -24% | -29% | |
| 金融費用以外の費用 | 297.3 | 319.9 | 81.5 | 85.2 | 79.8 | 80.3 | 74.6 | -7% | -8% | |
| 税前利益 | 100.6 | 192.0 | 57.2 | 81.1 | 40.0 | 47.7 | 23.3 | -51% | -59% | |

顧客資産純増¹、ストック収入



決算のポイント

<通期>

- 株式市場の活況が追い風となり増収増益～税前利益は、セグメント情報開示を開始した2002年3月期以降、2006年3月期(1,972億円)に次ぐ2番目の高水準

<第4四半期>

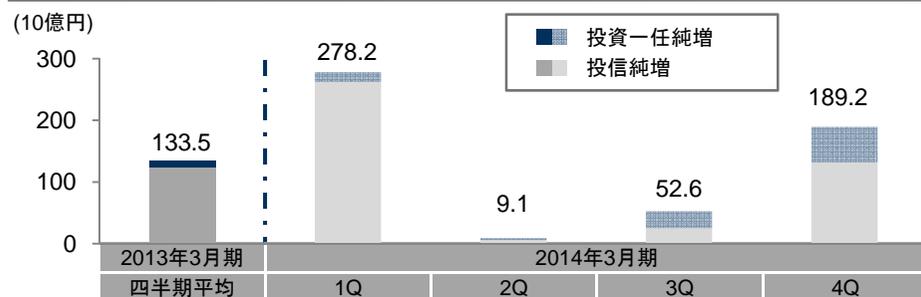
- 不透明な市場環境を受けて投資家のリスク許容度が低下、優遇税制終了前の駆け込み需要があった前四半期比で減速 ～主に、株式・投信募集買付が減少
- ビジネスモデルの変革が進捗
 - 持続成長可能な収益構造を実現する為、長期保有を重視したコンサルティング営業を更に徹底、ストック収入の拡大を目指す
 - 残高拡大の取組みは奏功～投信純増に加え、投資一任純増も増加

■ 顧客基盤

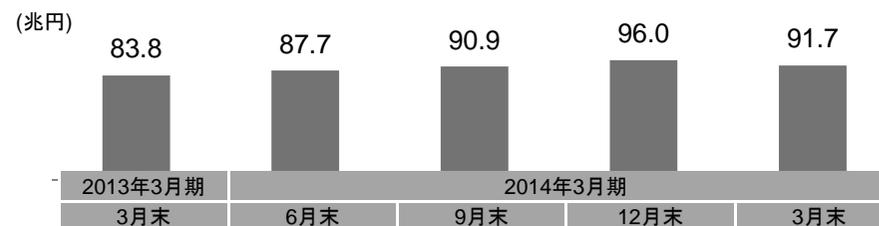
- 顧客資産残高 91.7兆円
- 残あり顧客口座数 514万口座
- NISA申込口座数 129万口座
- 顧客資産純増¹ -5,033億円
- ストック収入 134億円
- 投信純増³ 1,316億円
- 投資一任純増³ 576億円
- その他の販売状況
 - IPO、PO⁴ 2,270億円
 - リテール債券販売額⁵ 6,604億円

- 総募集買付額⁵は前四半期比23%減少

ストック収入拡大への取組み～投信純増³、投資一任純増³が増加



顧客資産残高



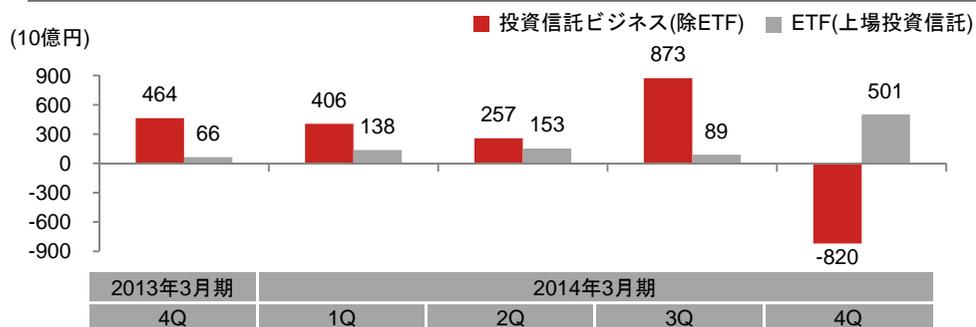
(1) 地域金融機関を除く (2) 2016年3月期ストック収入目標(696億円)に向けた進捗計画 (3) リテールチャネル、ウェルス・マネジメント・グループが対象 (4) リテールチャネル、ネット&コール、ほっとダイレクトが対象 (5) リテールチャネル、法人課(地域金融機関を除く)が対象

アセット・マネジメント部門

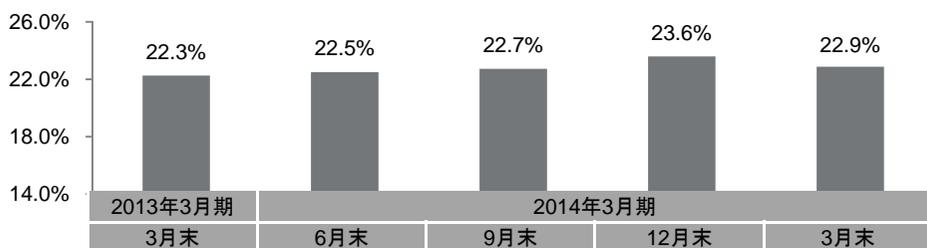
収益合計(金融費用控除後)、税前提利益

| (10億円) | 通期 | | 四半期 | | | | | | 前四半期比 | 前年同期比 |
|---------------|----------|-------------|------------|----------|------|------|-------------|------|-------|-------|
| | 2013年3月期 | 2014年3月期 | 2013年3月期4Q | 2014年3月期 | | | | | | |
| | | | | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | | | |
| 収益合計(金融費用控除後) | 68.9 | 80.5 | 18.3 | 20.2 | 18.6 | 21.2 | 20.5 | -4% | +12% | |
| 金融費用以外の費用 | 47.8 | 53.4 | 14.4 | 13.5 | 12.5 | 12.3 | 15.1 | +23% | +5% | |
| 税前提利益 | 21.2 | 27.1 | 3.9 | 6.7 | 6.2 | 8.9 | 5.3 | -40% | +36% | |

投資信託ビジネスの資金流出入¹



野村アセットマネジメントの公募投信シェア²



決算のポイント

<通期>

- 資金流入とマーケット環境の改善を通じて、運用資産残高が拡大
- 2008年3月期以来の高水準を達成
 - ✓ UCITS³に適合したファンドを欧州を中心とした富裕層、年金基金に販売
 - ✓ 運用資産残高は2013年3月末比で66%増加

<第4四半期>

投資信託ビジネス

- 多様なアセットクラスの投信に資金が流入

| 第4四半期資金流入額 | |
|----------------------|---------|
| 野村ドイチェ・高配当インフラ関連株投信: | 1,657億円 |
| 欧州ハイ・イールド・ボンド・ファンド: | 395億円 |
| 野村ハイパーブル・ベア4: | 366億円 |

- 顧客ニーズをとらえた私募投信の販売が地域金融機関中心に増加

- ETF商品「NEXT FUNDS」のラインナップが充実し、残高が拡大

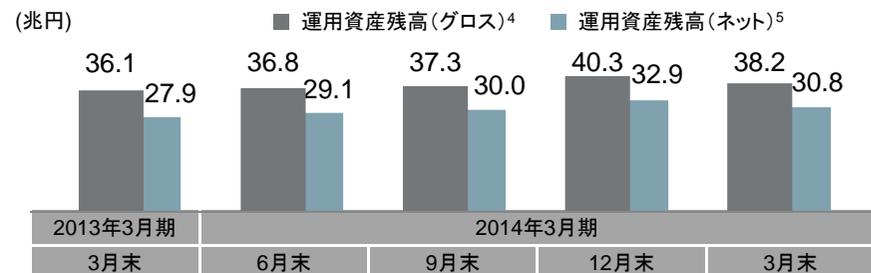
投資顧問ビジネス

- 国内は資金流出となるも、海外では日本株関連プロダクトへの資金流入が継続

アジアビジネスの強化

- 2014年4月にINGグループの台湾資産運用子会社(ING Securities Investment & Trust)の株式取得が完了し、連結子会社化

運用資産残高



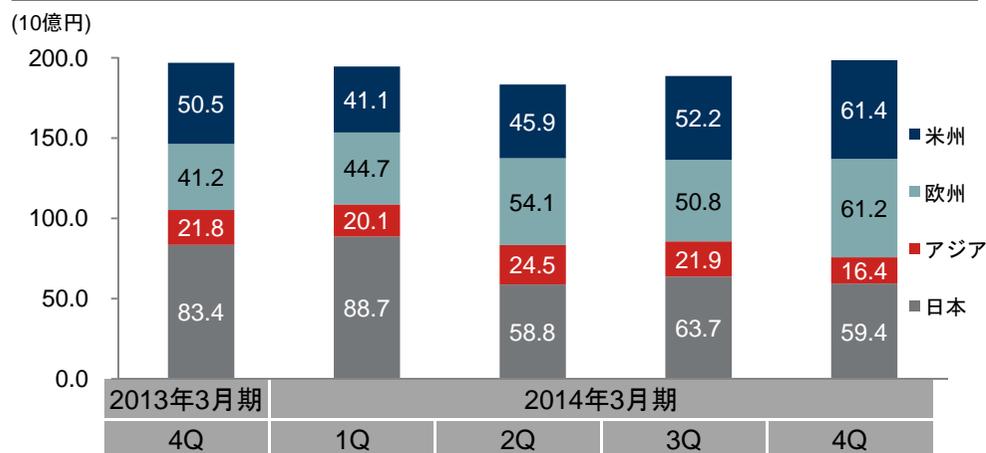
(1) 運用資産残高(ネット)に基づく資金流出入額 (2) 出所:投資信託協会 (3) Undertakings for Collective Investment in Transferable Securities (UCITS)、欧州委員会指令に定義される譲渡可能証券の集団投資事業のことで、欧州連合における投資信託の統一基準 (4) 野村アセットマネジメント、野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー、ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント、野村プライベート・エクイティ・キャピタルの運用資産の単純合計 (5) 運用資産残高(グロス)から重複資産控除後

ホールセール部門

収益合計(金融費用控除後)、税前利益

| | 通期 | | 四半期 | | | | | | | 前四半期比 | 前年同期比 |
|----------------|----------|--------------|------------|----------|-------|-------|--------------|------------|------|-------|-------|
| | 2013年3月期 | 2014年3月期 | 2013年3月期4Q | 2014年3月期 | | | | 2014年3月期4Q | | | |
| | | | | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | | | | |
| グローバル・マーケット | 560.4 | 649.7 | 173.1 | 165.3 | 159.6 | 158.0 | 166.8 | +6% | -4% | | |
| インベストメント・バンキング | 84.4 | 115.4 | 23.8 | 29.3 | 23.8 | 30.7 | 31.7 | +3% | +33% | | |
| 収益合計(金融費用控除後) | 644.9 | 765.1 | 196.9 | 194.6 | 183.3 | 188.7 | 198.5 | +5% | +1% | | |
| 金融費用以外の費用 | 573.2 | 653.3 | 161.3 | 169.4 | 158.1 | 160.9 | 165.0 | +3% | +2% | | |
| 税前利益 | 71.7 | 111.8 | 35.7 | 25.2 | 25.3 | 27.8 | 33.5 | +20% | -6% | | |

地域別収益



決算のポイント

<通期>

- 収益: 7,651億円 (前年比19%増)
- 税前利益: 1,118億円 (前年比56%増)
 - 全地域、全ビジネスラインが前年比で増収
 - ビジネスの戦略的見直しやコスト削減の取組みも奏功し、税前利益は2010年3月期以来の高水準

<第4四半期>

- 収益: 1,985億円 (前四半期比5%増、前年同期比1%増)
- 税前利益: 335億円 (前四半期比20%増、前年同期比6%減)
 - 好調な米州・欧州が、日本・アジアの減速を吸収し、前四半期比で増収増益

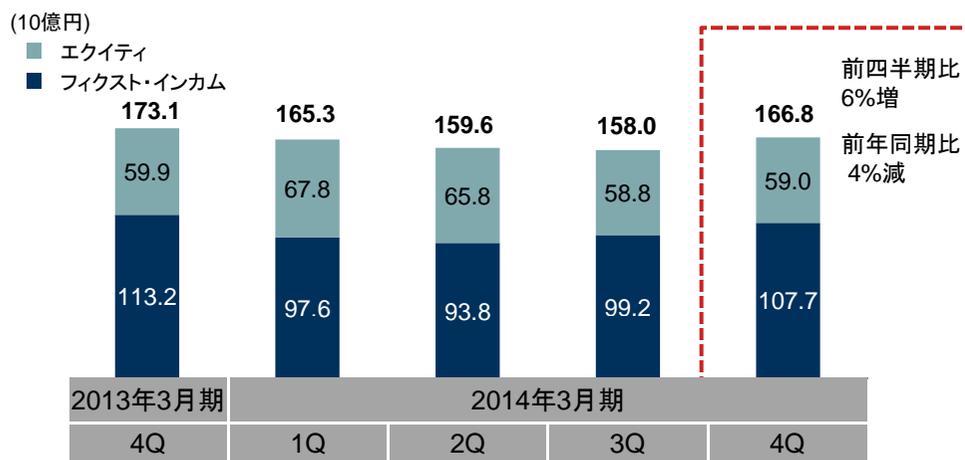
地域別概況(収益、前四半期比)

- 米州(614億円、18%増)
 - 米国ビジネス再構築後¹、最大の四半期収益～収益源が多様化し、全てのビジネスラインが増収
- 欧州(612億円、21%増)
 - グローバル・マーケットが回復、インベストメント・バンキングも部門間・地域間連携が奏功し、大幅増収
- 日本(594億円、7%減)
 - 顧客アクティビティの低下を受けてグローバル・マーケットが減速、ECM中心にインベストメント・バンキングは堅調(前四半期に計上した一時要因を除くベース²)
- アジア(164億円、25%減)
 - 新興国通貨安や中国経済の不透明感等が、グローバル・マーケット収益に影響

(1)2010年3月期第1四半期以降 (2)担保の受け渡しを行っていないデリバティブについて、ファンディングコストを組み込んだ評価手法に変更した事により、第3四半期に約100億円の評価損を計上。また、プライベート・エクイティ投資先(足利ホールディングス)上場に伴う評価益(113億円)を計上

ホールセール部門: グローバル・マーケット、インベストメント・バンキング

グローバル・マーケット: 収益合計(金融費用控除後)¹



決算のポイント

<第4四半期>

グローバル・マーケット

- 収益: 1,668億円 (前四半期比6%増、前年同期比4%減)
 - 厳しい環境下にあって高水準の収益を計上
 - 顧客プラットフォームの拡大が継続、欧州、米州で顧客フロー収益が伸長

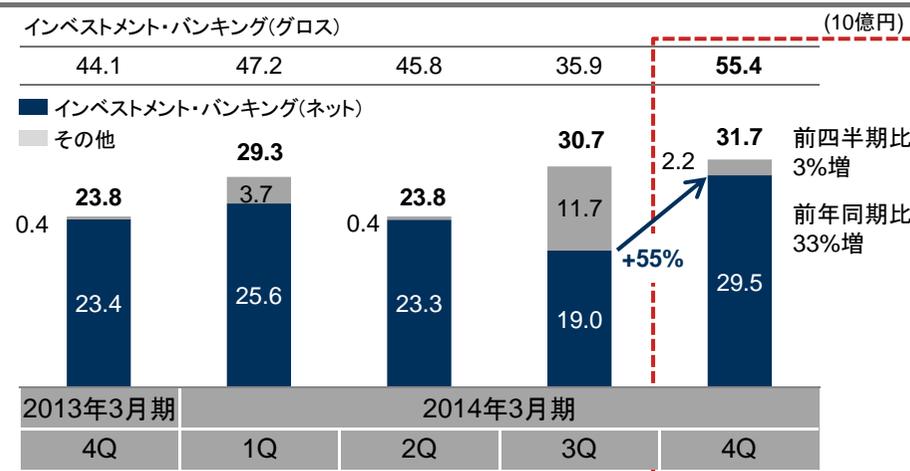
フィクスト・インカム

- 収益: 1,077億円 (前四半期比9%増、前年同期比5%減)
 - 新興国通貨を中心に為替が減速するも、金利と証券化商品が牽引し、前四半期で増収

エクイティ

- 収益: 590億円 (前四半期比0.4%増、前年同期比1%減)
 - 欧州、米州でともにキャッシュ、デリバティブの収益が増加、日本、アジアの減速を吸収

インベストメント・バンキング: 収益合計(金融費用控除後)



決算のポイント

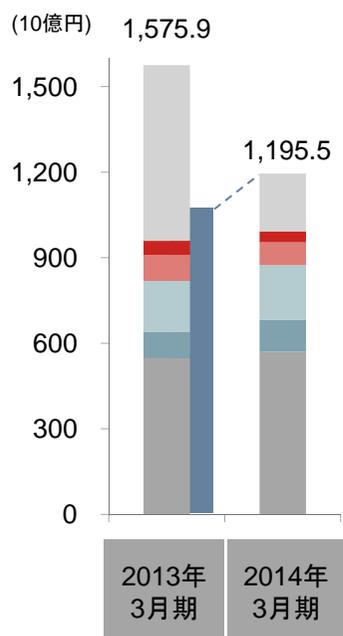
<第4四半期>

- 収益: 317億円 (前四半期比3%増、前年同期比33%増)
 - インベストメント・バンキング(ネット)収益は55%増~堅調な日本に加え、海外全地域が大幅に伸長
- インベストメント・バンキング(グロス)収益は554億円~2011年3月期第3四半期以来の高水準
 - 日本
 - ✓ 大型PO/IPO/CB等、ECMは引き続き好調
 - ✓ 新商品やソリューション・ビジネスの案件数も伸長し、収益に貢献
 - 海外
 - ✓ 全ての地域で生産性が向上、収益は前四半期比・前年同期比ともにほぼ倍増
 - ✓ 欧米を中心とした地域間連携を軸に、M&A複合化案件の完了やソリューション・ビジネスが収益に貢献

(1)2013年4月の組織改正に伴い、2013年3月期のフィクスト・インカムおよびエクイティを組み替えて表示

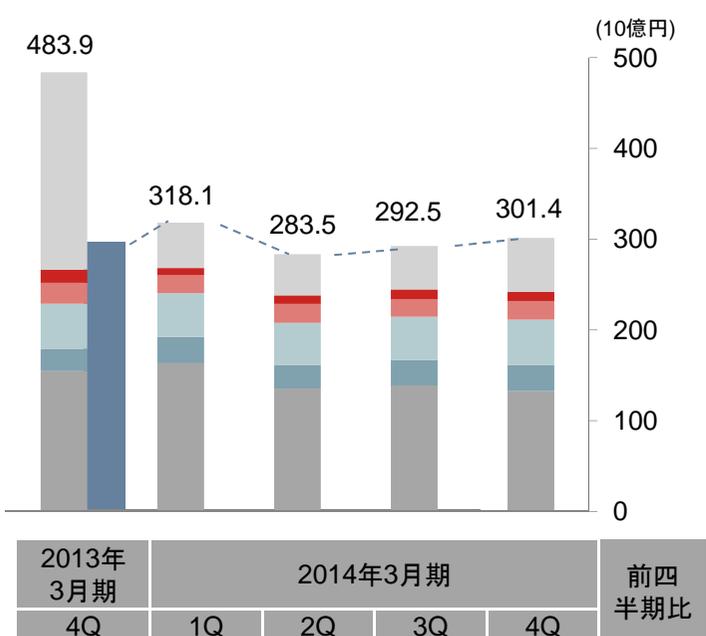
金融費用以外の費用

通期



| | | |
|-----------|----------------|----------------|
| 人件費 | 547.6 | 570.1 |
| 支払手数料 | 91.4 | 111.8 |
| 情報・通信関連費用 | 179.9 | 192.2 |
| 不動産関係費 | 91.5 | 80.1 |
| 事業促進費用 | 49.0 | 38.5 |
| その他 | 616.5 | 202.8 |
| 合計 | 1,575.9 | 1,195.5 |

四半期



| 2013年3月期 | 2014年3月期 | | | | 前四半期比 |
|----------|----------|-------|-------|--------------|--------------|
| 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q | |
| 154.6 | 163.2 | 135.4 | 138.8 | 132.6 | -4.5% |
| 24.6 | 29.0 | 26.1 | 28.0 | 28.7 | 2.6% |
| 49.6 | 48.2 | 46.2 | 47.8 | 49.9 | 4.6% |
| 23.1 | 19.8 | 20.8 | 19.0 | 20.5 | 8.1% |
| 14.5 | 7.9 | 9.5 | 11.0 | 10.1 | -8.2% |
| 217.6 | 50.0 | 45.4 | 47.9 | 59.4 | 24.0% |
| 483.9 | 318.1 | 283.5 | 292.5 | 301.4 | 3.0% |

決算のポイント

<通期>

- 金融費用以外の費用: 1兆1,955億円 (前年比: 24%減)
- 今期より、野村不動産ホールディングスが連結子会社から外れたことにより、全社費用が大幅に低下(同社の売上原価を含んでいたその他費用は67%減少)
- 野村不動産ホールディングスを除くと、業績好転や円安進行の影響もあり、前年比、12%増加

<第4四半期>

- 金融費用以外の費用: 3,014億円 (前四半期比: 3%増)
- 保有資産の評価見直しやITシステムの除却、専門家報酬の増加等でその他費用が24%増加
- 日本関連ビジネスの減速もあり、人件費は4%減少

強固な財務基盤

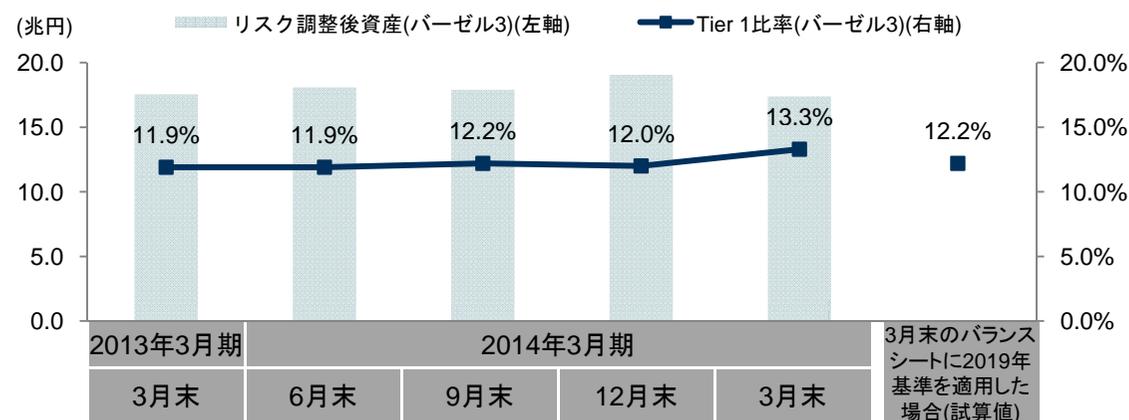
バランス・シート関連指標と連結自己資本規制比率

(2014年3月末現在)

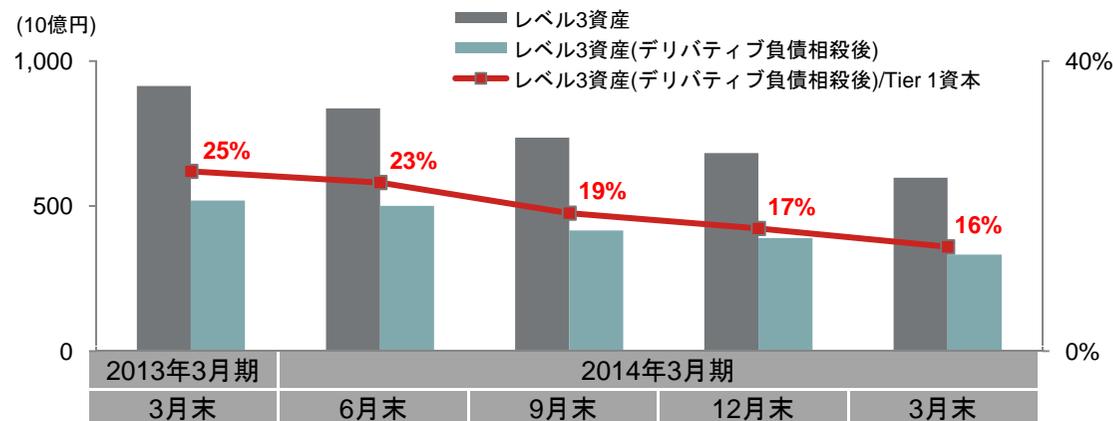
- 資産合計 43.5兆円
- 当社株主資本 2.5兆円
- グロス・レバレッジ 17.3倍
- 調整後レバレッジ¹ 10.4倍
- レベル3資産² 0.4兆円 (デリバティブ負債相殺後)
- 流動性ポートフォリオ 6.1兆円

| (10億円) | 12月末 (バーゼル3) | 3月末 ² (バーゼル3) |
|---------------------------|-----------------|-----------------------------|
| Tier 1 | 2,306 | 2,316 |
| Tier 2 | 376 | 402 |
| 自己資本合計 | 2,683 | 2,717 |
| リスク調整後資産 ³ | 19,125 | 17,385 |
| Tier 1 比率 | 12.0% | 13.3% |
| Tier 1 コモン比率 ⁴ | 12.0% | 13.3% |
| 連結自己資本規制比率 | 14.0% | 15.6% |

リスク調整後資産³、Tier 1比率



レベル3資産²の推移と対Tier 1資本比率



(1)調整後レバレッジは、総資産の額から売戻条件付買入有価証券および借入有価証券担保金の額を控除した額を、当社株主資本の額で除して得られる比率 (2) 暫定数値 (3) 信用リスク・アセットの算出に用いるエクスポージャーの額は、期待エクスポージャー方式(IMM)を用いて算出 (4) Tier 1 コモン比率: Tier 1 資本から非支配持分を控除し、リスク調整後資産で除したもの

バランスシート・マネジメント

貸借対照表
(2014年3月末現在)

バランスシート構造

- 流動性の高い、健全なバランスシート構造
 - 資産の83%は流動性の高いトレーディング関連資産であり、Mark-to-marketの対象。レポ等を通じて、トレーディング関連負債とマッチング(地域、通貨)
 - その他の資産は、資本及び長期負債で調達しており、構造的に安定

流動性ポートフォリオ²

- 流動性ポートフォリオ:
 - 6.1兆円、総資産の14%
 - 新たな無担保資金調達に頼らず、一定期間、事業継続可能な高い流動性を常時保持

| <資産> | <負債・資本> |
|------------------------------|--------------------------------|
| トレーディング 関連資産 ¹ | トレーディング 関連負債 ¹ |
| 現金・預金 その他の資産 | その他の負債 短期借入 長期借入 資本合計 |

調達構造

- 保守的な調達構造
 - 無担保調達資金²の8割強が長期負債
 - 償還年限および調達先は幅広く分散

資本基盤

- 強固な資本基盤
 - Tier1比率: 13.3%
 - Tier1コモン比率³: 13.3%

(1) トレーディング関連資産: リバース・レポ、証券、デリバティブ等、トレーディング関連負債: レポ、負債証券、デリバティブ等 (2) 流動性管理の観点に基づくもので、財務諸表の定義と異なる。流動性ポートフォリオの中の現金・預金は取引所預託金およびその他の顧客分別金を含まない。 (3) Tier 1コモン比率: Tier 1資本から非支配持分を控除し、リスク調整後資産で除したもの

流動性ポートフォリオ

- ストレストストに基づく流動性管理。6.1兆円(\$60bn)の流動性ポートフォリオ¹を保持(2014年3月31日現在)
- G4国債等の高流動性資産で構成、通貨・保有エンティティともにバランスよく配置

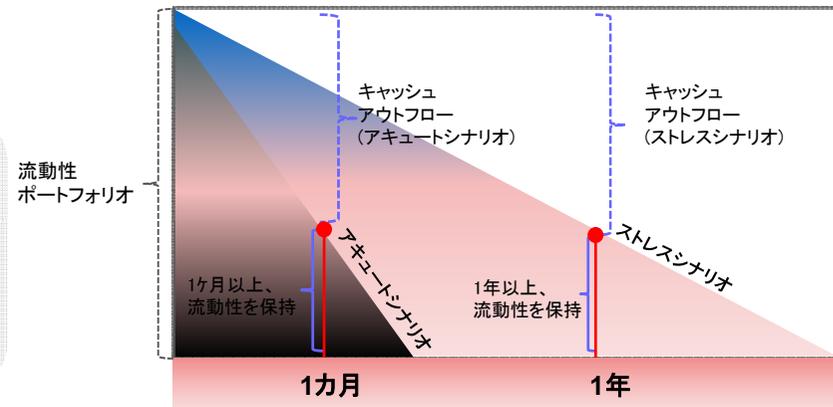
流動性管理方針 ~ ストレストストに基づくキャッシュフロー・モデルにより管理

- ストレストストを用いて流動性リスクを管理
- 2つのストレスシナリオにおいて、保有資産を維持しつつ、無担保の資金調達(含む再調達)をせずに、一定期間、業務を継続することが出来る十分な流動性を保持することを基本とする
 - ① ストレスシナリオ: 市場全体が流動性ストレスにさらされる状況(=1年間)
 - ② アキュートシナリオ: 上記に加えて、当社の信用力に対して懸念をもたれるなど過度なストレスがかかる状況(=1カ月間)

主なストレス項目

- ✓ 預金・余剰担保のロールオフ
- ✓ 提供したコミットメントローンの一部または全額引出による資金流出
- ✓ ストレス時に予想されるストラクチャードノートの早期償還による資金流出
- ✓ 既存のレポ調達時の担保掛目の拡大
- ✓ 損失による流動性の低下
- ✓ 決済にかかる担保の追加差入
- ✓ 発行済み社債の買い取りの可能性
- ✓ 格付け機関による格下げ、等

2つのシナリオ下での流動性ポートフォリオ推移(概念図)



流動性ポートフォリオ構成(2014年3月31日現在)

商品構成



日・米・独・英の国債を中心とした流動性の高い国債あるいは現預金による構成を継続維持

通貨構成



主要基軸通貨にて分散保有、保有通貨構成は機動的に組替え

保有エンティティ構成



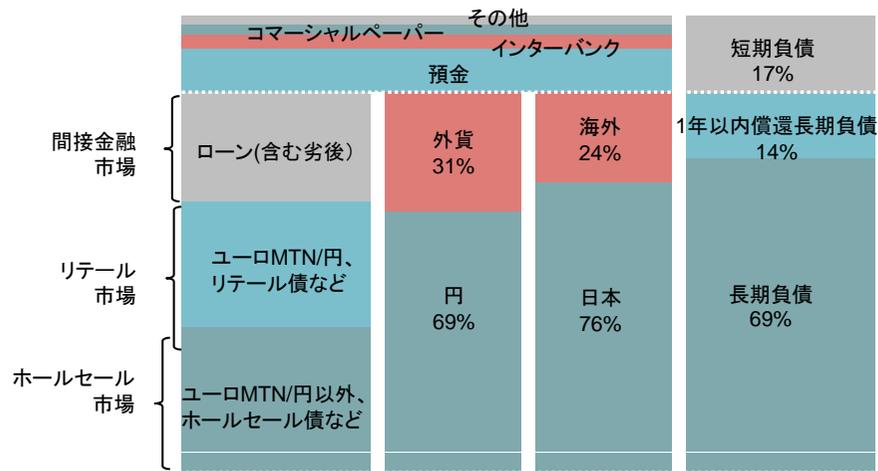
約8割をストレス時の資金需要が見込まれる証券会社または当社(親会社)にて保有

(1) 流動性管理の観点に基づくもので、財務諸表の定義と異なる。流動性ポートフォリオの中の現金・預金は取引所預託金およびその他の顧客分別金を含まない。暫定値 (2) Nomura International PLC, Nomura Securities International Inc. 等 (3) 野村証券は日本のブローカーディーラーであり、日本銀行に口座を維持し、日本銀行のロンバード貸付制度を直接利用することにより、同日資金調達が可能。当社における余剰流動性は必要な時に即時解約可能な短期社内貸付により、野村証券に貸し出している (4) Nomura Bank International PLC, Nomura Bank (Luxembourg) S.A. 等

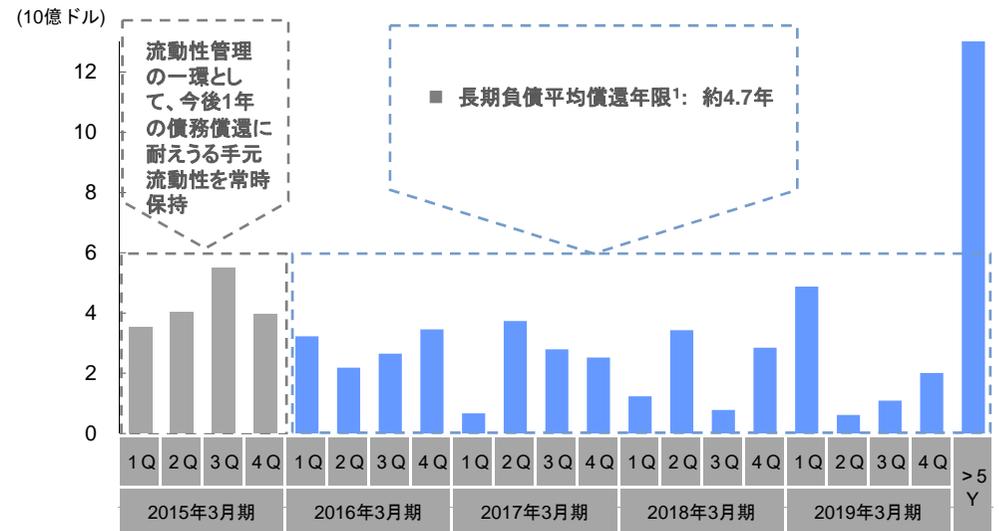
調達構造

- 無担保調達の8割強を長期負債が占めるなど、長期調達構造を維持
- チャンネルを以下3つの市場へ分散することにより、再調達リスクを低減
 - ✓ 間接金融市場: 邦銀を中心としたリレーションシップ・バンクからの調達
 - ✓ ホールセール市場: インターナショナルな投資家を含む機関投資家向け債券市場へのアクセス
 - ✓ リテール市場: 広範な国内リテール網を通じた調達
- 償還期限を分散、長期負債償還年限¹は約4.7年
- 円貨・外貨ともに、公募、私募、銀行借入等への分散化、償還の平準化に留意しつつ、市場環境あるいは当社のビジネス需要に応じて、機動的な調達を継続

無担保調達資金²: 約7割が長期負債、調達先は分散 (2014年3月末)



再調達リスクを管理、長期負債償還年限¹は約4.7年(2014年3月末)



(1) 2014年3月末時点におけるストレスシナリオでの早期償還確率を織り込む。1年以内償還長期負債を除く (2) 流動性管理の観点に基づくもので、財務諸表の定義と異なる

| 2014年3月31日現在 | Standard & Poor's | Moody's | Fitch Ratings | 格付投資情報センター(R&I) | 日本格付研究所(JCR) |
|------------------------------|-------------------|---------|---------------|-----------------|--------------|
| 野村ホールディングス株式会社 | | | | | |
| 長期格付 | BBB+ | Baa3 | A- | A+ | AA- |
| 短期格付 | A-2 | - | F1 | a-1 | - |
| 見通し | 安定的 | 安定的 | 安定的 | 安定的 | 安定的 |
| 野村證券株式会社 | | | | | |
| 長期格付 | A- | Baa2 | A- | A+ | AA- |
| 短期格付 | A-2 | P-2 | F1 | a-1 | - |
| 見通し | 安定的 | 安定的 | 安定的 | 安定的 | 安定的 |
| 野村信託銀行株式会社 | | | | | |
| 長期格付 | A- | - | - | - | AA- |
| 短期格付 | A-2 | - | - | a-1 | - |
| 見通し | 安定的 | - | - | - | 安定的 |
| ノムラ・バンク・インターナショナル PLC | | | | | |
| 長期格付 | A- | - | - | - | AA- |
| 短期格付 | A-2 | - | - | - | - |
| 見通し | 安定的 | - | - | - | 安定的 |

The logo for NOMURA, consisting of the word "NOMURA" in a bold, red, sans-serif font. The logo is positioned in the upper right corner of a grey rectangular area that features a large, stylized, overlapping geometric pattern of triangles and trapezoids in various shades of grey and white.

Financial Supplement

バランス・シート関連データ

連結貸借対照表

| 資産 | (単位:百万円) | | |
|---|-------------------|-------------------|-----------|
| | 前期 (2013.3.31) | 当期 (2014.3.31) | 前期比増減 |
| 現金・預金: | | | |
| 現金および現金同等物 | 805,087 | 1,489,792 | 684,705 |
| 定期預金 | 577,921 | 363,682 | △ 214,239 |
| 取引所預託金およびその他の顧客分別金 | 269,744 | 335,836 | 66,092 |
| 計 | 1,652,752 | 2,189,310 | 536,558 |
| 貸付金および受取債権: | | | |
| 貸付金 | 1,575,494 | 1,327,875 | △ 247,619 |
| 顧客に対する受取債権 | 63,792 | 64,070 | 278 |
| 顧客以外に対する受取債権 | 992,847 | 1,181,742 | 188,895 |
| 貸倒引当金 | △ 2,258 | △ 3,009 | △ 751 |
| 計 | 2,629,875 | 2,570,678 | △ 59,197 |
| 担保付契約: | | | |
| 売戻条件付買入有価証券 | 8,295,372 | 9,617,675 | 1,322,303 |
| 借入有価証券担保金 | 5,819,885 | 7,729,326 | 1,909,441 |
| 計 | 14,115,257 | 17,347,001 | 3,231,744 |
| トレーディング資産およびプライベート・エクイティ投資: | | | |
| トレーディング資産※ | 17,037,191 | 18,672,318 | 1,635,127 |
| プライベート・エクイティ投資 | 87,158 | 41,996 | △ 45,162 |
| 計 | 17,124,349 | 18,714,314 | 1,589,965 |
| その他の資産: | | | |
| 建物、土地、器具備品および設備 (2013年3月31日現在 355,831百万円、 2014年3月31日現在 350,820百万円の減価償却累計額控除後) | 428,241 | 408,917 | △ 19,324 |
| トレーディング目的以外の負債証券※ | 920,611 | 1,023,746 | 103,135 |
| 投資持分証券※ | 123,490 | 136,740 | 13,250 |
| 関連会社に対する投資および貸付金※ | 345,705 | 345,434 | △ 271 |
| その他 | 602,159 | 784,174 | 182,015 |
| 計 | 2,420,206 | 2,699,011 | 278,805 |
| 資産合計 | 37,942,439 | 43,520,314 | 5,577,875 |

※担保差入有価証券を含む

| 負債および資本 | (単位:百万円) | | |
|-----------------------|--|-------------------|-----------|
| | 前期 (2013.3.31) | 当期 (2014.3.31) | 前期比増減 |
| 短期借入 | 738,445 | 602,131 | △ 136,314 |
| 支払債務および受入預金: | | | |
| 顧客に対する支払債務 | 476,705 | 492,516 | 15,811 |
| 顧客以外に対する支払債務 | 864,962 | 1,230,176 | 365,214 |
| 受入銀行預金 | 1,072,134 | 1,114,181 | 42,047 |
| 計 | 2,413,801 | 2,836,873 | 423,072 |
| 担保付調達: | | | |
| 買戻条件付売却有価証券 | 12,444,317 | 13,937,690 | 1,493,373 |
| 貸付有価証券担保金 | 2,158,559 | 2,359,809 | 201,250 |
| その他の担保付借入 | 806,507 | 814,500 | 7,993 |
| 計 | 15,409,383 | 17,111,999 | 1,702,616 |
| トレーディング負債 | 8,491,296 | 11,047,285 | 2,555,989 |
| その他の負債 | 978,163 | 1,141,750 | 163,587 |
| 長期借入 | 7,592,368 | 8,227,063 | 634,695 |
| 負債合計 | 35,623,456 | 40,967,101 | 5,343,645 |
| 資本 | | | |
| 当社株主資本: | | | |
| 資本金 | | | |
| 授権株式数 - | 6,000,000,000株 | | |
| 発行済株式数 - | 2013年 3月31日現在 3,822,562,601株 2014年 3月31日現在 3,822,562,601株 | | |
| 発行済株式数 (自己株式控除後) - | 2013年 3月31日現在 3,710,960,252株 2014年 3月31日現在 3,717,630,462株 | | |
| 資本剰余金 | 594,493 | 594,493 | - |
| 利益剰余金 | 691,264 | 683,638 | △ 7,626 |
| 累積的その他の包括利益 | 1,136,523 | 1,287,003 | 150,480 |
| 計 | △ 57,395 | 20,636 | 78,031 |
| 自己株式(取得価額) | | | |
| 自己株式数 - | 2013年 3月31日現在 111,602,349株 2014年 3月31日現在 104,932,139株 | | |
| 計 | △ 70,514 | △ 72,090 | △ 1,576 |
| 当社株主資本合計 | 2,294,371 | 2,513,680 | 219,309 |
| 非支配持分 | 24,612 | 39,533 | 14,921 |
| 資本合計 | 2,318,983 | 2,553,213 | 234,230 |
| 負債および資本合計 | 37,942,439 | 43,520,314 | 5,577,875 |

※担保差入有価証券を含む

連結損益

| (10億円) | 通期 | | 四半期 | | | | |
|--------------------|--------------|----------------|--------------|----------|-------|-------|--------------|
| | 2013年 3月期 | 2014年 3月期 | 2013年 3月期 | 2014年3月期 | | | |
| | | | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
| 収益 | | | | | | | |
| 委託・投信募集手数料 | 359.1 | 474.6 | 125.7 | 157.6 | 105.6 | 121.4 | 89.9 |
| 投資銀行業務手数料 | 62.4 | 91.3 | 21.8 | 25.4 | 23.0 | 15.8 | 27.2 |
| アセットマネジメント業務手数料 | 141.0 | 167.2 | 38.8 | 42.4 | 40.7 | 42.1 | 42.1 |
| トレーディング損益 | 368.0 | 476.4 | 106.5 | 128.4 | 110.2 | 108.5 | 129.2 |
| プライベート・エクイティ投資関連損益 | 8.1 | 11.4 | 1.5 | 0.1 | 0.7 | 11.0 | -0.3 |
| 金融収益 | 394.0 | 416.3 | 98.0 | 115.3 | 98.1 | 102.6 | 100.3 |
| 投資持分証券関連損益 | 38.7 | 15.2 | 23.9 | 7.9 | 5.0 | 7.5 | -5.2 |
| その他 | 708.8 | 179.5 | 304.0 | 28.2 | 45.1 | 38.5 | 67.7 |
| 収益合計 | 2,079.9 | 1,831.8 | 720.1 | 505.3 | 428.4 | 447.4 | 450.8 |
| 金融費用 | 266.3 | 274.8 | 66.5 | 73.9 | 72.0 | 68.0 | 60.8 |
| 収益合計(金融費用控除後) | 1,813.6 | 1,557.1 | 653.6 | 431.3 | 356.4 | 379.4 | 389.9 |
| 金融費用以外の費用 | 1,575.9 | 1,195.5 | 483.9 | 318.1 | 283.5 | 292.5 | 301.4 |
| 税引前当期純利益 | 237.7 | 361.6 | 169.7 | 113.2 | 72.9 | 86.9 | 88.6 |
| 当社株主に帰属する当期純利益 | 107.2 | 213.6 | 82.4 | 65.9 | 38.1 | 48.3 | 61.3 |

連結決算:セグメント情報と地域別情報 税前利益(損失)

連結決算数値とセグメント数値間の調整:税前利益(損失)

| (10億円) | 2013年 3月期 | 2014年 3月期 | 2013年 | 2014年3月期 | | | |
|--------------------------|--------------|--------------|-------|----------|------|------|-------------|
| | | | 3月期 | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q |
| 営業部門 | 100.6 | 192.0 | 57.2 | 81.1 | 40.0 | 47.7 | 23.3 |
| アセット・マネジメント部門 | 21.2 | 27.1 | 3.9 | 6.7 | 6.2 | 8.9 | 5.3 |
| ホールセール部門 | 71.7 | 111.8 | 35.7 | 25.2 | 25.3 | 27.8 | 33.5 |
| 3セグメント合計税前利益 | 193.5 | 330.9 | 96.8 | 113.0 | 71.4 | 84.4 | 62.1 |
| その他 | 6.6 | 20.0 | 50.1 | -7.0 | -3.5 | -3.7 | 34.2 |
| セグメント合計税前利益 | 200.0 | 350.9 | 146.9 | 106.1 | 67.9 | 80.7 | 96.2 |
| 営業目的で保有する 投資持分証券の評価損益 | 37.7 | 10.7 | 22.8 | 7.2 | 5.0 | 6.2 | -7.7 |
| 税引前当期純利益 | 237.7 | 361.6 | 169.7 | 113.2 | 72.9 | 86.9 | 88.6 |

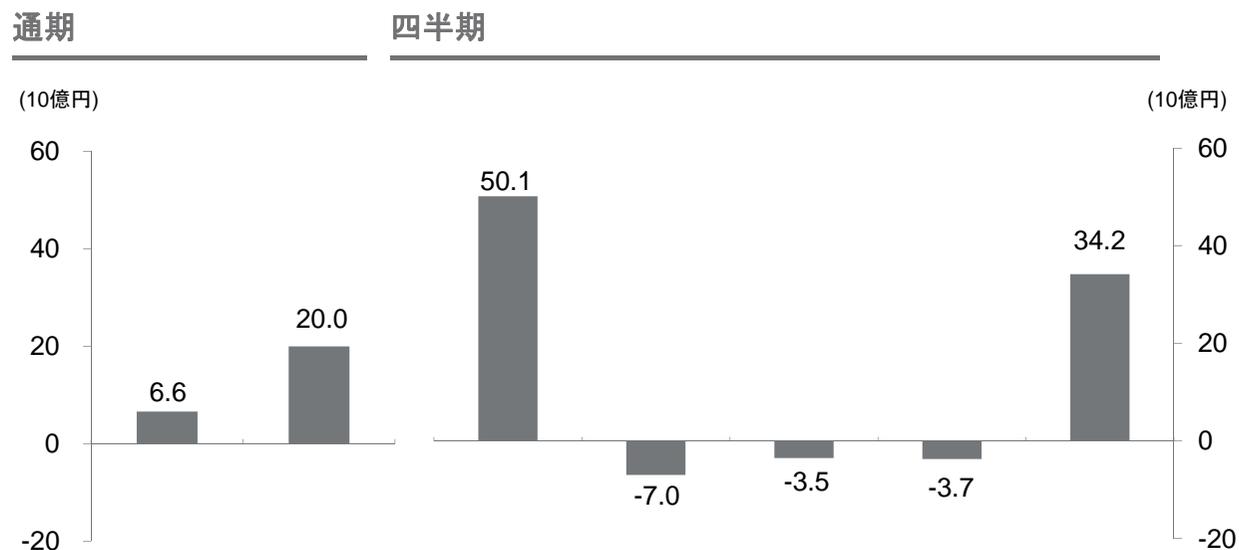
地域別情報:税前利益(損失)¹

| (10億円) | 2013年 3月期 | 2014年 3月期 | 2013年 | 2014年3月期 | | | |
|-----------|--------------|--------------|-------|----------|-------|-------|--------------|
| | | | 3月期 | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q |
| 米州 | 25.7 | 29.5 | 2.3 | -8.5 | -1.3 | 8.0 | 31.2 |
| 欧州 | -93.1 | -48.9 | -36.5 | -4.4 | -19.6 | -14.8 | -10.1 |
| アジア・オセアニア | -12.1 | -5.2 | -7.9 | -0.8 | 2.3 | -1.5 | -5.2 |
| 海外合計 | -79.4 | -24.7 | -42.0 | -13.7 | -18.7 | -8.2 | 15.9 |
| 日本 | 317.2 | 386.3 | 211.7 | 126.9 | 91.6 | 95.1 | 72.6 |
| 税前利益(損失) | 237.7 | 361.6 | 169.7 | 113.2 | 72.9 | 86.9 | 88.6 |

(1)米国会計原則に基づく「地域別情報」を記載(但し当第3四半期の数値は速報値)。米国会計原則に基づく「地域別情報」は、その収益および費用の各地域への配分が原則として役務の提供される法的主体の所在国に基づき行われており、当社において経営管理目的で用いられているものではありません

セグメント「その他」

税前利益(損失)



| | 2013年 | | 2014年3月期 | | | | |
|----------------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| | 3月期 | 3月期 | 4Q | 1Q | 2Q | 3Q | 4Q |
| 経済的ヘッジ取引に関連する損益 | 1.0 | 17.4 | 0.8 | 7.4 | -1.7 | 5.2 | 6.5 |
| 営業目的で保有する投資持分証券の実現損益 | 1.0 | 4.4 | 1.2 | 0.7 | 0.0 | 1.3 | 2.4 |
| 関連会社損益の持分額 | 14.4 | 28.6 | 5.2 | 5.3 | 8.9 | 8.2 | 6.2 |
| 本社勘定 | 17.7 | -38.8 | 32.9 | -12.3 | -8.7 | -14.0 | -3.8 |
| その他 | -27.5 | 8.4 | 10.0 | -8.0 | -2.0 | -4.4 | 22.8 |
| 税前利益(損失) | 6.6 | 20.0 | 50.1 | -7.0 | -3.5 | -3.7 | 34.2 |

バリュー・アット・リスク

■ VaRの前提

- 信頼水準 : 99%
- 保有期間 : 1日
- 商品の価格変動等を考慮

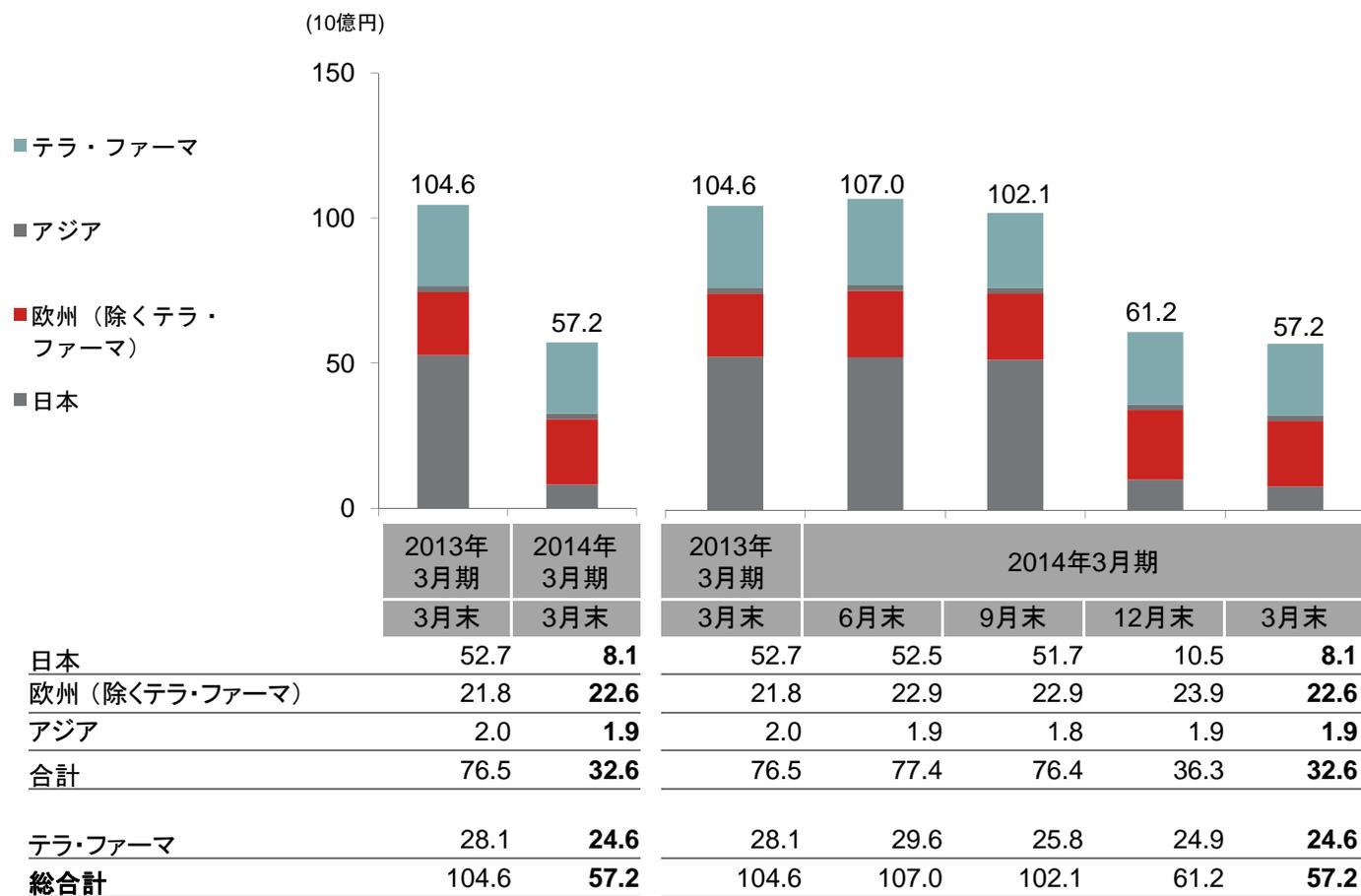
■ VaRの実績(10億円)

- 期間 : 2013.4.1~2014.3.31
- 最大 : 9.9
- 最小 : 4.4
- 平均 : 6.7

| (10億円) | 2013年 3月期 | 2014年 3月期 | 2013年3月期 | 2014年3月期 | | | |
|--------------|--------------|--------------|----------|----------|------|------|-------------|
| | 3月末 | 3月末 | 3月末 | 6月末 | 9月末 | 12月末 | 3月末 |
| 株式関連 | 1.3 | 1.3 | 1.3 | 2.6 | 1.9 | 3.6 | 1.3 |
| 金利関連 | 5.0 | 3.9 | 5.0 | 5.4 | 5.1 | 6.6 | 3.9 |
| 為替関連 | 1.9 | 2.8 | 1.9 | 1.9 | 1.8 | 2.6 | 2.8 |
| 小計 | 8.1 | 8.0 | 8.1 | 9.9 | 8.7 | 12.9 | 8.0 |
| 分散効果 | -3.0 | -2.9 | -3.0 | -3.2 | -3.2 | -4.3 | -2.9 |
| 連結VaR | 5.1 | 5.2 | 5.1 | 6.6 | 5.5 | 8.6 | 5.2 |

ホールセール部門関連データ

プライベート・エクイティ関連投資残高



人員数

NOMURA

| | 2013年 3月期 | 2014年 3月期 | 2013年3月期 | 2014年3月期 | | | |
|------------------------|--------------|---------------|----------|----------|--------|--------|---------------|
| | 3月末 | 3月末 | 3月末 | 6月末 | 9月末 | 12月末 | 3月末 |
| 日本 (FA除く) | 14,123 | 14,149 | 14,123 | 14,654 | 14,454 | 14,308 | 14,149 |
| FA社員 | 1,907 | 1,888 | 1,907 | 1,911 | 1,923 | 1,918 | 1,888 |
| 欧州 | 3,618 | 3,461 | 3,618 | 3,485 | 3,459 | 3,456 | 3,461 |
| 米州 | 2,271 | 2,281 | 2,271 | 2,240 | 2,243 | 2,248 | 2,281 |
| アジア・オセアニア ¹ | 6,037 | 5,891 | 6,037 | 5,961 | 5,945 | 5,902 | 5,891 |
| 合計 | 27,956 | 27,670 | 27,956 | 28,251 | 28,024 | 27,832 | 27,670 |

(1)インド(ボワイ・オフィス)を含む

Disclaimer

本資料は、野村ホールディングス株式会社が、米国会計基準による2014年3月期第4四半期の業績に関する情報の提供を目的として作成したものです。

本資料は、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。売付または買付の勧誘は、それぞれの国・地域の法令諸規則等に則って作成・配布される募集関連書類または目論見書に基づいて行われます。

本資料に掲載されている情報や意見は、信頼できると考えられる情報源より取得したものです。その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落、誤謬、本情報の使用により引き起こされる損害等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

本資料の一切の権利は別段の記載がない限り野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の書面による承諾を得ずに複製または転送等を行わないようお願いいたします。

本資料は、将来の予測等に関する情報(「将来予測」)を含む場合があります。また当社の経営陣は将来予測に関する発言を行うことがあります。これらの情報は、過去の事実ではなく、あくまで将来の事象に対する当社の予測にすぎず、その多くは本質的に不確実であり、当社が管理できないものであります。実際の結果や財務状態は、これらの将来予測に示されたものとは、場合によっては著しく異なる可能性があります。したがって、将来予測は、過度に信頼すべきではなく、不確実性やリスク要因をあわせて考慮する必要がある点にご留意ください。実際の結果に影響を与える可能性がある重要なリスク要因としては、経済情勢、市場環境、政治的イベント、投資家のセンチメント、セカンダリー市場の流動性、金利の水準とボラティリティ、為替レート、有価証券の評価、競争の条件と質、取引の回数とタイミング等が含まれるほか、当社ウェブサイト(<http://www.nomura.com>)、EDINET(<http://info.edinet-fsa.go.jp/>)または米国証券取引委員会(SEC)ウェブサイト(<http://www.sec.gov>)に掲載されている有価証券報告書等、SECに提出した様式20-F年次報告書等の当社の各種開示書類にもより詳細な記載がございますので、ご参照ください。

なお、本資料の作成日以降に生じた事情により、将来予測に変更があった場合でも、当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

Nomura Holdings, Inc.
www.nomura.com/jp/